

横浜市、横浜・八景島シーパラダイスの協働で ブルーカーボン (海洋生物によるカーボンオフセット) 実証実験開始 ～ 海洋を利用した地球温暖化対策の新機軸に挑戦 ～

環境モデル都市・横浜市では、金沢区をモデルに「環境」を切り口とした産業の育成と環境教育の充実に取り組み、温室効果ガスの削減と経済活性化を進める「横浜グリーンバレー構想」を進めています。

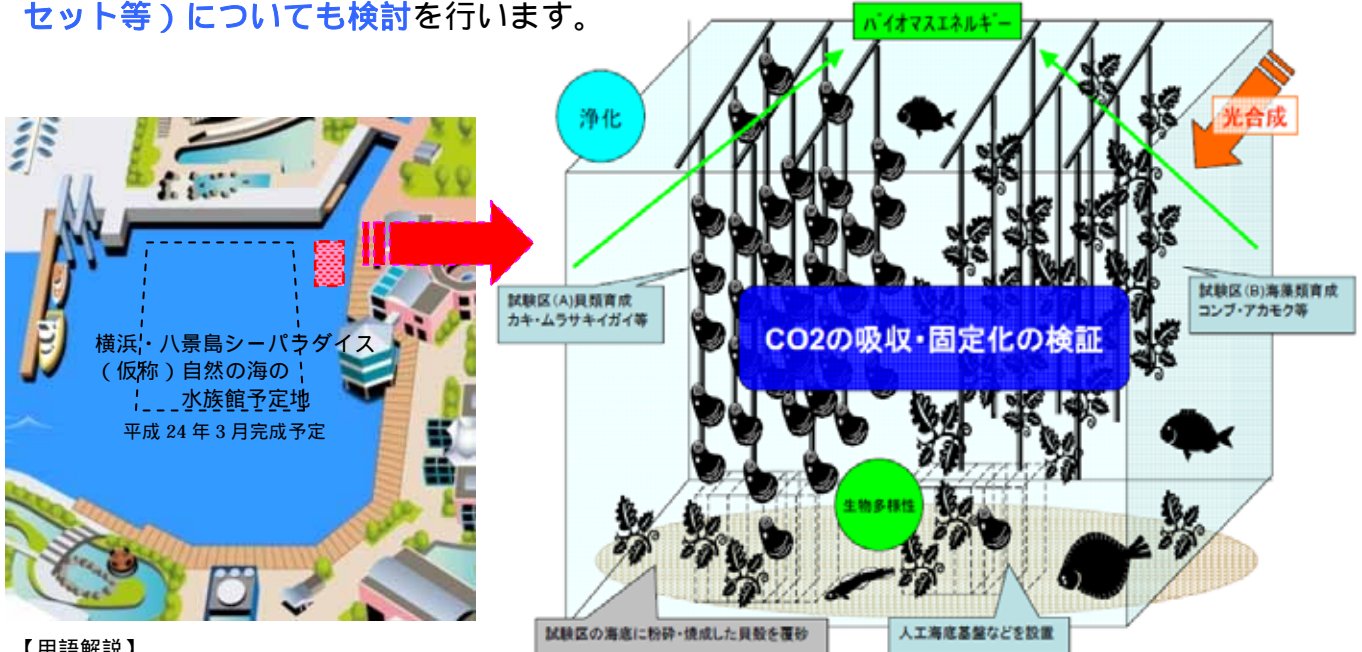
このたび、日本を代表する海洋アミューズメント施設である横浜・八景島シーパラダイス（金沢区八景島）とともに、新たな脱温暖化プロジェクト“ブルーカーボン”¹の実証実験に取り組むことといたしました。

地上より温室効果ガスの吸収量が高いと見込まれる海域²における温暖化対策の取組は、南北に長い沿岸部を持つ横浜市においては特に有効と考えられます。「美しい横浜港」のプロジェクトの一つです。

本実証実験では、横浜・八景島シーパラダイスのご協力を得て、島内のセントラルベイに実験海域を確保し、海域における温室効果ガス吸収・固定化の効果と海域環境への影響（海の浄化）等を検証します。さらに、将来的に、ブルーカーボンによる経済的価値の仕組みづくり（カーボンオフセット）を目指します。

【取組1】海洋生物による温室効果ガスの吸収・削減

実験海域において貝類や藻類を育成し、そのライフサイクルにおける温室効果ガスの吸収・削減効果（ブルーカーボン）をLCCO₂³の観点で検証します。また、吸収・削減された温室効果ガスを、市場メカニズムを通して経済的価値に転換するスキーム（カーボンオフセット等）についても検討を行います。



【用語解説】

1：森林による二酸化炭素吸収（グリーンカーボン）に対して、海洋生物による吸収をさすもの。2009年の国連環境計画（UNEP）の報告書において命名され、その重要性が指摘されました。

2：全世界から1年間に排出されるCO₂量72億トンのうち、海洋全体で吸収される量は22億トン、森林など陸上で9億トン、大気への放散が41億トン。自然界で固定化される炭素の55%はブルーカーボンと推定される。

（国連環境計画（UNEP）報告書より）

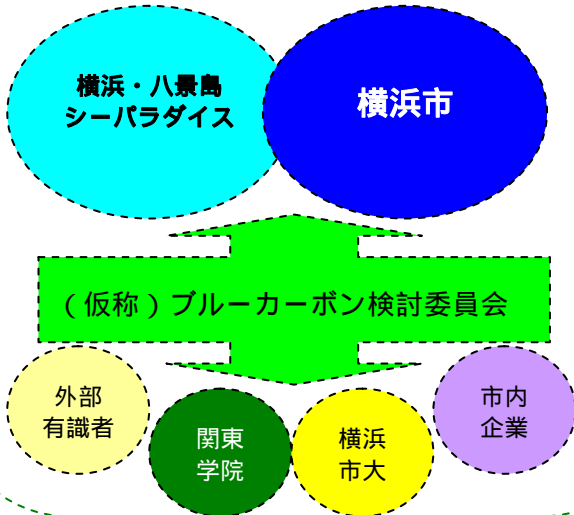
3：ライフサイクルCO₂の略で、生産～廃棄といったライフサイクルの中でのCO₂収支計算を行います。

【取組 2】

横浜グリーンバレーに基づく

産官学民の連携

実証実験にあたり、市内の事業者や市民、大学と連携するとともに、アミューズメントの要素を取り入れた実験の「見える化」を行います。具体的には、横浜・八景島シーパラダイスとともに（仮称）「ブルーカーボン検討委員会」を設立し、研究者との共同研究や環境保全のエキスパートの養成、定期的な情報発信などを実施していきます。さらに、実験施設の建設や収穫物のリサイクルなど、できるだけ市内企業の技術や製品・サービスを利用し、地域活性化も促進していきます。



【取組 3】

総合的環境教育・イベントの実施

横浜グリーンバレーでは、昨年 8 月に横浜・八景島シーパラダイスにて実施した環境啓発イベント「見て・来て・さわって楽しく学ぶエコ学級」といった環境教育事業にも力を入れてきました。

本事業においては、育成する生物の植え付け及び収穫イベントに地元の小学生を招くなど、横浜・八景島シーパラダイスを舞台に「食育」や「生物多様性」といった総合的な環境学習を実施していきます。

（平成 22 年 8 月イベント風景）



【当面のスケジュール】

平成 23 年 4 月	（仮称）ブルーカーボン検討委員会を横浜・八景島シーパラダイスと共同で立ち上げ
平成 23 年 8 月	実験施設の着工
平成 23 年 9 月	実験生物植え付けイベント
平成 23 年 9 月 ~ 平成 24 年 3 月	実証実験
平成 24 年 3 月	実験生物収穫イベント及び中間成果報告
平成 24 年 4 月 ~	実証実験の継続

◇ 横浜市 地球温暖化対策事業本部

E-mail: ks-ondanka@city.yokohama.jp

City of Yokohama Climate Change Policy Headquarters

あなたの毎日に、エコをプラスしよう。

Yokohama 工コ活。

Yokohama Green Valley

お問い合わせ先

地球温暖化対策事業本部	地球温暖化対策課長	高橋 俊和	Tel 045-671-4108
株式会社横浜八景島	営業推進部長代理	増淵 修	Tel 045-788-9635